

強者の戦略

【ヨーロッパだけではなく一緒にアジア・アフリカも】

センター試験まで一ヶ月となりました。こんにちは、“世界征服計画”の北林です。

インフルエンザの予防接種はうけられましたか？ノロウイルスにかかったりしていませんか？予防の一番は手洗いですね。あとは質の高い睡眠をとること。体調管理も受験対策ですから、気をつけてください。私たち講師陣もフル稼働ですので、気をつけていきます。前回も書きましたがもちろん生姜紅茶は必須です(笑)。

さて、今回ですが、東大の問題にチャレンジしてみましよう。今頃の時期ですと、学校でも世界史はすべて終わっているはず。ということは、西洋史の通史や中国史だけではなく、アジアの近現代史にも触れられるはずですよ。

以下の問題は先日の「東大論述世界史スパルタン」であつかいました。アジアの民族運動が多くあるので、こちらをやってもらいたいと思いました。

東大志望者のみならず、もちろん京大や一橋をうけられる方も内容をしっかり確認してください。必要なエッセンスがいっぱい入っています。

問題

第1次世界大戦は総力戦であり、植民地の人々も動員された結果、列強の国内はもとより、その支配地域も大きな変動に見舞われた。そのため、第1次世界大戦期から1920年代半ばにいたる約10年間には、世界各地で様々な性格をもつ大衆的な政治運動が高まることになった。この時期のヨーロッパとアジアにおける大衆的な政治運動の展開について、具体的な事例を挙げながら、20行以内（1行30字）で論ぜよ。解答は、解答用紙（イ）の欄に記せ。

（東京大学 1990年）